

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 公益財団法人 京都府国際センター

1. 事業名称 地域における多文化共生のための日本語学習支援事業

2. 事業の目的 地域における日本語支援などの多文化共生に係る施策を推進するにあたり、府内市町村や地域国際化協会だけでは十分に事業を展開できないケースが多い。そのため、当センターが中心となって日本語支援ボランティアの養成・研修や日本語教室立ち上げ・運営についての事業を各市町村と協働して展開し、地域における多文化共生を推進する。

3. 事業内容の概要

- 日本語支援ボランティア研修会
- 日本語支援ボランティアオリエンテーション
- 外国につながる児童・生徒の日本語・学習サポーター養成講座
- 学習教材の作成

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年9月9日 10:30～12:30	2時間	京都府国際センター	浜田 麻里 花岡 正義 大久保 雅由 麻田 友子 近藤 徳明	学習教材作成、日本語支援ボランティア研修会(京丹後市)	・学習教材作成の進め方について ・綾部市研修会の報告 ・京丹後市研修会の日程、内容、広報、事務分担について
2	平成24年10月15日 15:00～17:00	2時間	京都府国際センター	花岡 正義 諏訪 喜栄子 麻田 友子 近藤 徳明	日本語支援ボランティア研修会(京丹後市)、日本語支援ボランティアオリエンテーション(南丹市)、日本語学習サポーター養成講座	・京丹後市研修会の内容、事務分担についての最終確認 ・南丹市オリエンテーションについての日程、内容、講師について ・日本語学習サポーター養成講座の進捗状況報告
3	平成24年12月9日 10:30～12:30	2時間	京都府国際センター	浜田 麻里 花岡 正義 大久保 雅由 麻田 友子 近藤 徳明	学習教材作成、日本語支援ボランティアオリエンテーション(南丹市)	・学習教材作成の進捗状況報告 ・京丹後市研修会の報告 ・南丹市オリエンテーションの内容についての最終確認 ・南丹市での養成講座(来年度実施予定)の進め方について
4	平成25年3月5日 10:30～12:30	2時間	綾部ボランティア総合センター	花岡 正義 諏訪 喜栄子 麻田 友子 近藤 徳明	振り返りおよび府内日本語教室ネットワーク化について	・今年度実施した日本語教育事業についての振り返り ・来年度の実施希望事業などについて ・北中部地域での日本語教育体制整備についての意見交換

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営 ※京都府の補助金を得て実施

- (1) 講座名称
- (2) 目的・目標
- (3) 対象者
- (4) 開催時間数(回数) _____ 時間 (全 _____ 回)
- (5) 使用した教材・リソース
- (6) 受講者の総数 _____ 人
(出身・国籍別内訳 _____)
- (7) 受講者の募集方法
- (8) 日本語教室の具体的内容
- (9) 特徴的な授業風景(2～3回分)
- (10) 目標の達成状況・成果
- (11) 改善点について

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 日本語支援ボランティア研修会～外国につながる児童・生徒の日本語・学習サポートについて～
- (2) 目的・目標 府北部地域に点在する外国につながる日本語指導が必要な児童・生徒をサポートする人材を育成し、学校内だけでなく地域の日本語教室等でもサポートが行えるような環境を整備する。また複数の市町村にまたがって実施することで、点在型の地域で孤立しがちな支援者が近隣市町の支援者と連携しあえるようにきっかけづくりを行う。
- (3) 対象者 日本語支援ボランティア、教員、外国につながる児童・生徒の日本語学習に関わりのある方
- (4) 開催時間数(回数) 29.5 時間 (全 8 回)
- (5) 使用した教材・リソース
- (6) 受講者の総数 121 人

(出身・国籍別内訳 日本 121人)

(7) 受講者の募集方法

○募集案内(地域国際化協会、大学、国際活動団体、日本語教室など)

○広報誌(京都府、京丹後市、福知山市、城陽市)

○ホームページ

○府内各教室へのDM

○登録ボランティアへのDM

(8) 養成・研修の具体的内容

回(※)	開催日	時間数	受講人数	会 場	内 容
①	8月26日(日)	4 時間	18 人	綾部市林業センター	・ボランティア活動を考える ・初級第一歩からの日本語 ・イ・ナ形容詞のワークショップ
②	11月18日(日)	4 時間	21 人	ら・ぽーと	・定住外国人に対する文字学習支援 ・災害時の外国人支援について
③	1月20日(日)	2.5 時間	27 人	南丹市国際交流会館	・ボランティアの視点から見る国際交流 ・市民が関わる日本語支援ボランティア
④	3月2日(土)	3 時間	30 人	文化・パルク城陽	・日本語支援の目的 ・授業の進め方について ・ボランティア運営や心構えなど
⑤	11月10日(土)	4 時間	17 人	舞鶴西総合会館 文化情報センター	京都府における子どもたちの状況/ 体験！外国の学校に行ってみよう！ バイリンガルの子どもの言語習得
⑥	11月17日(土)	4 時間	21 人	舞鶴勤労者福祉会館	多文化の背景をもつ子どもたちの受け入れ 外国語としての日本語
⑦	12月1日(土)	4 時間	18 人	綾部市I・Tビル	日本語指導1(初期指導) 日本語指導2(技能別指導)
⑧	12月8日(土)	4 時間	22 人	福知山市民会館	日本語指導から教科指導へ 地域における支援の取り組み事例の紹介

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

外国につながる児童・生徒の日本語・学習サポーター養成講座(11/10～12/8)

①「京都府における子どもたちの状況」、「体験！外国の学校に行ってみよう！」

外国にルーツを持つ子どもの状況(国籍やその特徴など)や学校での対応の様子や状況に加えて外国人生徒等の受験上の配慮などを含めた入試制度を紹介。その後、フィリピン語でフィリピン語を学ぶ授業を体験。

②「バイリンガルの子どもの言語習得」

バイリンガルの子どもの言語習得の過程、生活言語、学習言語やサポートの方法などを紹介。

③「多文化の背景をもつ子どもたちの受入」

子どもたちの直面する課題、受け入れに当たっての対応、教員の体制などを紹介。

④「外国語としての日本語」

外国人の視点から日本語の学習を体験

⑤「日本語指導1(初期指導)」

受け入れにあたっての留意点、低年齢の子どもの特徴や指導方法とその事例を紹介。

⑥「日本語指導2(技能別指導)」

教科指導につなげるまでの指導、文型・表記・発音などの指導方法を紹介。

⑦「日本語指導から教科指導へ」

日本語指導の考え方を採り入れた教科指導での支援、子どもたちのつまずきから支援を考える。

⑧「地域による支援の取り組み事例の紹介Ⅰ、Ⅱ」

渡日・帰国青少年(児童・生徒)のための京都連絡会(ときめき)の取り組み、活動を紹介。こども日本語教室 こどもひろばの活動を始めた経緯と現状を紹介。



- (10) 目標の達成状況・成果 アンケート結果や参加者の反応から研修会や養成講座の内容については概ね満足度が高く、日本語支援に関するスキルアップや外国につながる児童・生徒のサポートについての意識啓発にはつながった。今後は市町村や日本語教室などに働きかけて実際の支援活動につながるような仕組みづくりに取り組んでいく必要がある。
- (11) 改善点について 北中部地域での研修については当初は複数の市町村や市町村国際化協会が協働し、持ち回りで実施して参加者もお互いに行き来していたが、時間や距離的な問題で互いの行き来が負担となってきた。どの地域からもアクセスしやすい場所で会場を固定して開催することも検討していきたい。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 京都府国際センター日本語教室基礎クラス A、B、会話クラス
- (2) 対象 指導者(日本語レベル初級者を指導)、学習者(日本語レベル初級者)
- (3) 目的・目標 京都府国際センターの日本語教室を府内各地域で市町村や市町村国際化協会が日本語教室を設置する際にガイドとなるようなモデル的教室とするため、各地域で活用できる学習教材を作成する。
- (4) 構成
- 基礎クラスA** 第1回①自己紹介 第1回②初対面隣人への挨拶 第2回①所在を聞く 第2回②施設などの営業時間を聞く 第3回ファストフード店やカフェでの注文 第4回日本人宅を訪問し歓談 第5回目的の場所を尋ねる 第6回バスや電車に行き先を確かめて乗る 第7回乗り物での忘れ物を届け出る 第8回自分の経験を話したり、質問

して情報を得る 第9回病院などで自分の体調を医師に伝える 第10回自分の日常生活について話す 第11回物の授受について話す 第12回図書館を利用する 第13回趣味について話す 第14回タクシーを利用して目的地に行く 第15回パート募集に応募し、面接を受ける 第16回自分の希望・要求を伝えて、情報を得る 第17回ゴミ出しの方法 第18回人を誘ったり、人の誘いを受ける 第19回警察・消防 第20回人の前でまとまった話ができる

基礎クラスB 第1回①自己紹介 第1回②買い物や注文 第2回自分の国の紹介 第3回クリニックで診察を受ける 第4回日本と出身地を比較する 第5回①自分の一日について話す 第5回②人を誘う 第6回能力・趣味・嗜好について友達と話す 第7回依頼する・許可を求める 第8回ルールやマナーを理解して生活する 第9回自分の思いや経験を話す 第10回友達と話す 第11回能力や実現可能なことについて述べる 第12回①動作の順序を述べる 第12回②洋服の寸法直しを頼む 第13回事物の状態を描写する、不満を述べる 第14回災害情報を聞いて適切な行動をとる 第15回①子供時代のことを話す 第15回②将来の希望を話す 第16回情報を得て予定を立てる 第17回再配達の利用をする 第18回①ATMが使える 第18回②分からない場所を人に聞いて目的地に行く 第19回警察・消防 第20回人の前でまとまった話ができる

会話クラス 第1回初対面の人に自分の話をする 第2回文字情報から情報を得る 第3回地域の地理や店を調べる 第4回公共の交通機関を利用して目的地に行く 第5回紛失・盗難にあった場合、隣人や近くの人に助けを求める 第6回病気の症状を説明する 第7回テレビやインターネットから情報を得る 第8回自分の希望通りの注文をする 第9回テーマを理解し自分の意見を述べる 第10回日常生活で困っていることや疑問に思っていることを相談する

- (5) 使い方 指導者(日本語レベル初級者を指導)用テキストおよび学習者(日本語レベル初級者)用配布物として使用。
- (6) 具体的な活用例 当センターの日本語教室で使用。府内市町村や市町村国際化協会に公開・配布し、合わせて学習教材を使用する当センターの日本語教室を公開することで、各地域の日本語指導の参考としてもらう。
- (7) 成果物の添付 学習教材を添付

8. 事業に対する評価について

- (1) 事業の目的 地域における日本語支援などの多文化共生に係る施策を推進するにあたり、府内市町村や地域国際化協会だけでは十分に事業を展開できないケースが多い。

そのため、当センターが中心となって日本語支援ボランティアの養成・研修や日本語教室立ち上げ・運営についての事業を各市町村と協働して展開し、地域における多文化共生を推進する。

- (2) 目標の達成状況・事業の成果 日本語教育に係る養成講座や研修会を各地域と連携して実施したことにより、日本語支援を行う人材の育成・養成だけでなく、府内日本語教育関係団体とのネットワークの構築も大きく前進した。加えて、地域の日本語教育の質の向上につながるよう公開・配布を前提として作成した学習教材の完成もあり、府内の日本語教育体制の整備に一定の成果を得た。
- (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について
学習教材の作成にあたり、標準的なカリキュラム案に基づいて新たに作成したものを新年度からの日本語教室で使用予定。また、実際に使用したのち修正したものを市町村や市町村国際化協会などの日本語教室に公開・配布する予定をしている。
- (4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等
京丹後市、舞鶴市、福知山市、綾部市、南丹市、城陽市と6地域で市町村国際化協会や日本語教室と連携して事業を実施したが、そのことによって各地域との関係性ができ、来年度以降開催を予定している北中部地域の日本語教室ネットワーク会議の設置に大いに役立った。
- (5) 改善点、今後の課題について 各地域と連携しての事業実施やネットワークの構築、学習教材の作成など日本語教育の体制整備については一定の成果を得ることができたと考えるが、その充実を図ろうとするならば日本語教育関係者のみならず、一般住民の理解が不可欠である。日本語教育や日本語教室の意義を一般住民に広く知らせる取組を検討していきたい。
- (6) その他参考資料 アンケートを添付